

我が長田消防団第7分団



〈執筆者〉

長田消防団
第7分団

部長 赤木 康孝

長田消防団第7分団は、地域密着型の分団です。入団の契機となったのは、阪神・淡路大震災のとき、幼稚園勤務であった関係で、住民の避難所を開設しており、分団長をはじめとする消防団員の夜警の訪問を受け、消防団の素晴らしさを知ったことです。その後、私の祖父の關係で、すぐに入団する運びとなりました。

入団後は、多岐にわたる活動に驚くとともに、第7分団の積極的な地域へのかかわりに感激しました。

消防団活動の中で、誇りに思う素晴らしい出来事がありました。それは、わが分団が平成15年、第6回神戸市消

防団小型動力ポンプ操法大会でチャンピオンになったことです。分団の平均年齢は40歳を超えており、優勝までには幾多の試練がありました。消防署のご指導を仰ぎ、練習後の反省会を欠かすことなく行った半年間で、分団の結束は日ごとに強く固くなり、それとともにタイムも上がり、まるで奇跡を見るようでした。

大会当日は、署員、他の分団、ご家族の皆さんの応援によって、35・99秒のタイムをたたき出し、優勝することができました。あの喜びは一生忘れることはないでしょう。

優勝して感じたことは、人間は同



じ目標に向かって努力すれば、選手・サポーターを問わず、皆が一つになれるということです。すなわち、有事の際には、協力と助け合いの意思と力を持つているということです。

これを本来の消防活動に生かせないはずがなく、平均年齢40歳を超えたメンバーでも、一つになればここまでことができる、と強く思いました。一つの競技大会における訓練と結果が、団員と消防団を変え、人の意識の活性化につながったと感じています。

現在はさらに進んで、防災福祉コミュニティの皆さんと連携し、従来よりも一層、地域活動に率先して参加しています。これからもますます、まとまりと新しい発見の絶えない第7分団でありたいと願うとともに、記録タイムのごとく、神戸市のNo.1分団、長田消防団第7分団でありたいと願っています。